

成果指標				
成果指標	決算額÷予算額			
指標設定の考え方	予算額100%に対し決算額の割合を減らすことで、コスト縮減率を読み取れる。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標26年度
目 標	100	100	0	0
実 績	83.6	77.6	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	施設が老朽化すると修繕費等のコストが上がってくることから、漁港施設の長寿命化計画の作成が終了したことで、計画に沿って適正な維持管理を継続していく必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	平成29年度からプレジャーボートの利用料が値上げとなる可能性があることから、その場合は、利用者への周知徹底と協力依頼を、来年度適切に実施する必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	一次評価者の課題認識に加え条例等整備として、「伊予市漁港管理条例及び伊予市漁港管理条例施行規則」の整備を早急に行う必要がある。

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ見直すこと。